

# リプレースに対応した吸収冷温水機

EXRシリーズ, CXRMシリーズ

Absorption Chiller Ideal for Replacement

## 高効率と小型化を両立したコンパクトなEXR (H) シリーズ および、分割により非常用エレベータで搬入可能な モジュール連結型のCXRMシリーズは リプレースに最適です。

High-efficiency and more compact EXR (H) series and easy-to-install splittable modular CXRM series that fits onto standard freight elevators are ideal for replacement.

### リプレース対応高効率吸収冷温水機 EXR (H) シリーズ



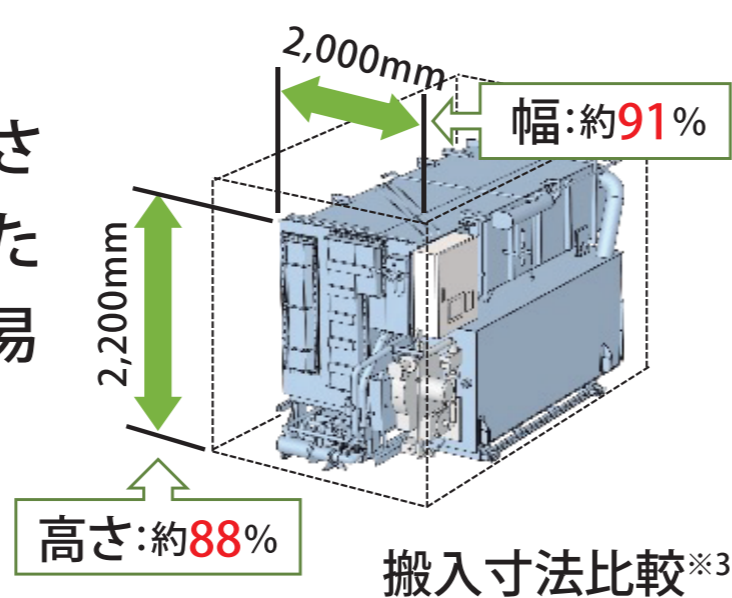
定格COP: 1.46<sup>※1</sup>

EXRシリーズ : 422~1,125 k W (120~320USRT)  
EXRHシリーズ : 422~1,125 k W (120~320USRT)

#### ■コンパクト性

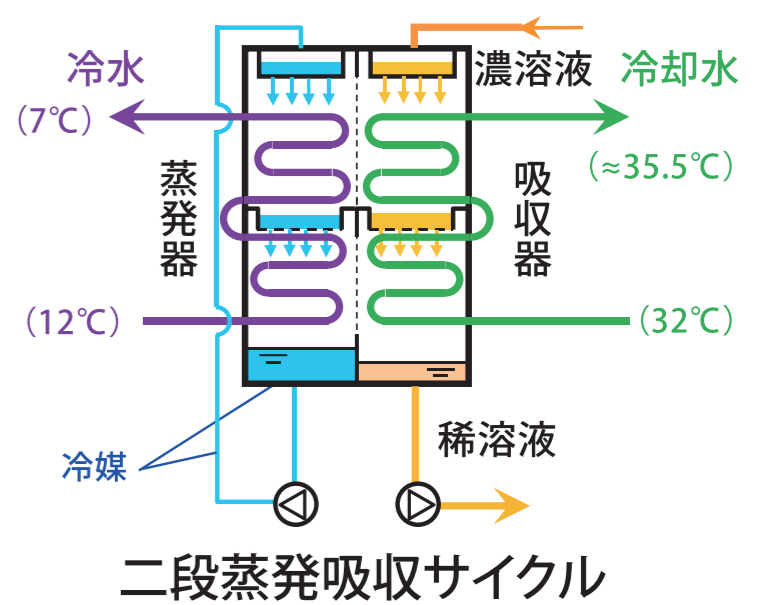
従来機 (EXH型)<sup>※3</sup>に比べ、搬入幅および高さ寸法を低減。搬入寸法を低減 (自社比較) したことにより、既設機から入替え時の搬入が容易に行えます。

平均で体積比: 約81%<sup>※3</sup>を達成しました。



#### ■二段蒸発吸収サイクル

高効率EXシリーズの高効率技術である二段蒸発吸収サイクルの基本構成を踏襲し、伝熱管の最適化などによりコンパクトと高効率を両立し、COP: 1.46<sup>※1</sup>を達成しました。さらに変動負荷に応じた溶液循環量を最適化する高期間効率にもオプション対応。高期間効率対応により、IPLV: 1.63<sup>※2</sup>を達成。



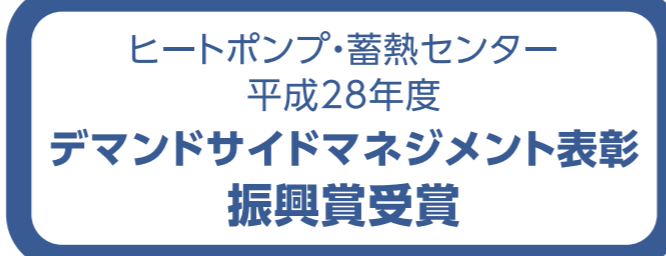
#### ■リプレース時の暖房容量の不足を解消

従来機の高効率機は、冷房時の定格消費量が低減し効率向上する反面、標準暖房容量は消費量の低減に比例し、従来機に比べ容量が小さく、暖房容量の不足が更新時の課題となっておりました。

EXR (H) シリーズは、従来機 (EX型)<sup>※4</sup>に比べ暖房容量を約18~9%<sup>※5</sup>増加し、暖房容量不足を解消します。

- ※1: COPは、JIS基準で冷水大温度差仕様でのEXR型の代表値です。
- ※2: IPLVは、JIS基準で冷水大温度差および高期間効率仕様でのEXR型の代表値です。
- ※3: 従来機 (EXH型: 2000年~発売機) とEXRH型との比較の平均値です。
- ※4: 従来機 (EX型: 2000年~発売機) とEXRH型との比較です。
- ※5: 機種により暖房容量が異なります。

### モジュール連結型吸収冷温水機 CXRMシリーズ



定格COP: 1.21<sup>※5</sup>

スマートコアラ CXRMシリーズ (大阪ガス株式会社共同開発)  
ガス焚: 176~1,055 k W (50~300USRT)

#### ■モジュール連結

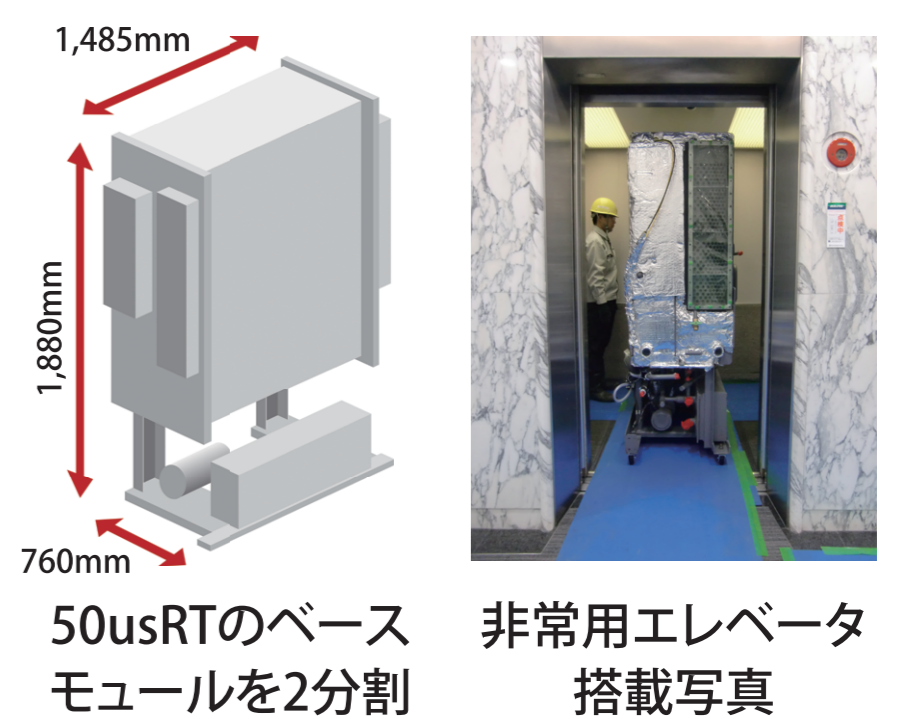
50USRTをベースモジュールとし、最大で連結6モジュールの連結により、300USRTまでに対応します。さらに負荷に応じた台数制御も可能です。

- ※5: COPは、JIS基準とし、代表機種値を示します。
- ※6: エレベータ搭載可否に関しては個別に搭載可否検討が必要です。
- ※7: 従来機 (S型: 1990年~発売機) との設置保守空間の比較です。

#### ■2分割によりエレベータに搭載

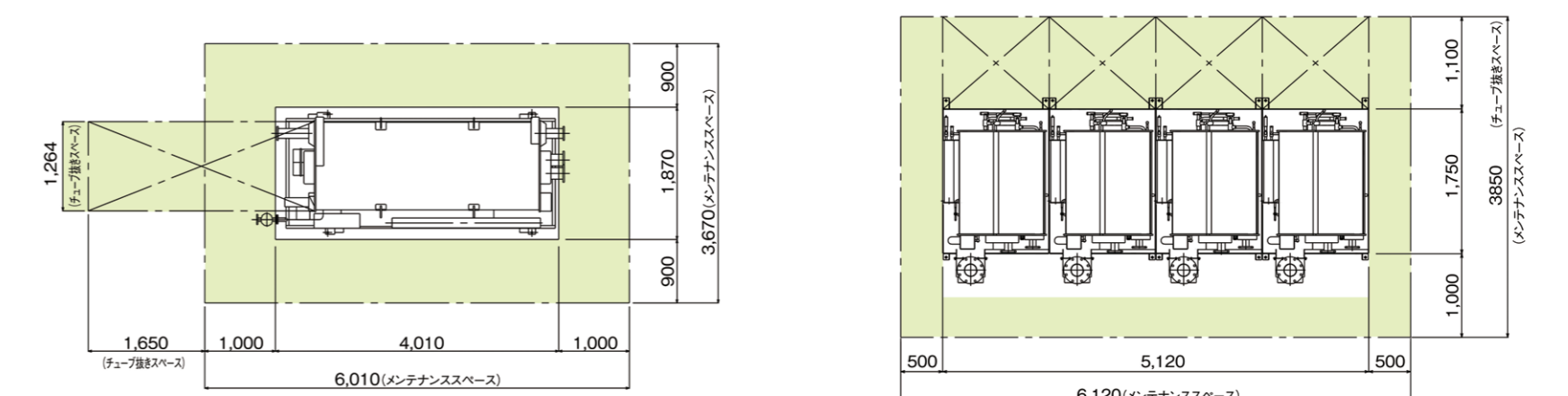
更新に際し、寸法や質量の制約により機械室への搬入設置が困難なケースが増えています。

モジュール連結型吸収冷温水機は、ベースモジュールを非常用エレベータで搭載可能<sup>※6</sup>な搬入寸法・質量に2分割することで搬入を容易にしました。



#### ■コンパクト化

モジュール連結でも同容量の既設機<sup>※7</sup>と設置保守スペースが同等の面積ですので、リプレースが容易になります。



当社従来機 (S型) 200USRT設置・保守スペース

スマートコアラ200USRT設置・保守スペース